

CHUOH TRY+ANGLE

知っ得通信

2008年3月10日発行 編集・発行：中央教育研究所(株) 〒732-0811 広島市南区段原2-15-5 <http://www.chuoh-kyouiku.co.jp/>



感情の論理 vol.12 「実践編—案内文Ⅱ—」

前回で紹介した「異業種交流会」の「グループ会案内」についての「見本」を紹介します。かなり長文ですが、同じA4版1枚に収まる内容です。まず、前回の「案内」と読み比べてください。

まず、最も重要な法則をお伝えします。

「質より量の法則」です。

前回の文章と比べると、圧倒的な量の文字数です。その「量」に、人は書き手の「意欲」「熱意」を感じます。あなたの「思い」を伝えるのに、必要最小限の文字数では絶対的に足りないはず。思いは伝えなければ伝わらないのが当然の原則です。

日本人の美德?として「沈黙は金」という言葉がありますが、「言葉を重ねなくても分かってくれるだろう」というのは、あくまでも家族や親しい友人間における場合であり、ビジネスの世界では通用しません。自分の思いを伝えるためには紙面がどれだけあっても足りない…という風情を感じさせるだけの「量」が必要なのです。

よく、「最近の日本人は長い文章を読まないの、簡潔な文章にすべきだ」という意見を聞きますが、長い文章を読まない人は、短い文章にしても読まないものです。ましてや、あなたが「教育意識の高い優良な顧客」を求めているのでしたら尚更です。

次に重要なテクニックは「物語」にして伝えることですが、さすがに長くなりすぎました。続きは次回、お話しします。

経政会 20年度グループ会及び決起集会のご案内

「ぼ、僕がグループ長でいいんですか?」矢野には「青天のへきれき」でした。あれは2ヶ月ほど前のことです。突然、東さんからの呼び出し電話を受けたのは、「矢野さん、話がある。」東さんの、いつになく真剣な声の呼び出しに、正直、「ああ、俺、何か問題でも起こしたかな。また、苦情でも寄せられたのだろうか」と、憂鬱な思いで出掛けました。ところが、開口一番、東さんはとんでもないことを言い出したのです。「来年度、桑畑会長に変わって私が経政会の会長を務めることになった。矢野さんには副会長として私を支えてもらいたい。」一瞬、意味が分かりませんでした。数秒後、事の重大さに気が付き、慌てて言いました。「ちょ、ちょっと待って下さい。東さんが会長に就任されるのは大歓迎ですが、僕みたいなトラブルメーカーがグループ長だなんて…荷が重いですし、第一、他の人が納得しませんよ!」「確かに、時期尚早の声もあった。実は、次のグループ長は、君だけではなく全員新任なんだ。経政会も発足して3年が経とうとしている。大きく変わらなければならない時期だ。だから、私も会長職を受けた。

そして、矢野さんのバイタリティに賭けようと思った。頼む、力を貸してくれ。」東さんはどうやら本気のような様子でした。そこまで言われれば、矢野も男です。すぐに決断しました。「僕の理想とするグループ運営をしてもいいんですね。」「経政会のルールさえ守ってくれば好きにやればいい。私が責任を取る。」こうして、来期のグループ長という大任を引き受けることになりました。正直、これまでのグループ活動は、一部の会員だけに「おんぶ」してもらい傾向が強く、経営者の学びと成長という経政会の理念を体現しているとは言い難い状況が見られたことは事実です。矢野は、新しいグループ長として既成概念を打ち破り、参加者全てにとって楽しく、有益なグループ活動を実現したいと考えています。現在の矢野は理想と意欲でパンパンです…とは言え、正直なところ本当にやっていけるのかと不安な気持ちが一方にあります。そこで、来年度から同じ「矢野グループ」に属することになった「あなた」の絶大な協力に「さすが」ことにしました。自分らしいグループ運営と言っても、具体的な方策が浮かばない矢野が考えた最初の一手は「どのグループよりも早く決起集会を開こう」という単純なものです。しかし、そのことで矢野の「やる気」をグループ員の皆さんに感じてもらい、一年間を駆け抜ける同志としての契りを結びたいと考えました。矢野は心を新たに、決意を新たにしています。矢野を支えて下さい。まずは、決起集会にご参集いただき、矢野の決意表明を聞いて下さい。そして、「あなた」の経政会に対する希望、要求…思いを聞かせて下さい。

意欲満々の新グループ長 矢野 吉章

矢野グループ決起集会 日時 平成20年1月31日(木) 午後7時～
場所 ○○ (別紙地図を参照して下さい)
会費 5,000円

- * F A X or メールにて今すぐ「行くぞ!」とご連絡下さい。
- * 当日ご都合の悪い方には後日、矢野が御社までご報告に行きます。

返信先 FAX 052-○○-8926 メール ○-yano@extra.ocn.ne.jp
お問合せ 090-○○-2993

今月の気になるハナシ

それぞれの年代に必要な食生活

ライフステージには、以下の段階があります。

乳児期 (0～1.5歳) 幼児期 (1.5～6歳)
 児童期 (7～12歳) 青年期 (13～24歳)
 成人期 (25～65歳) 高齢期 (65歳～)

妊娠・授乳期の7つに分類されています。

ライフステージを分類する意味は、その成長段階によって、必要とされる食生活のあるべき姿があるからです。

1. ライフステージそれぞれに必要な食生活

乳児期において望ましい食事は、母乳です。まずいないでしょうが、自分が美味しいからといって、この時期に最高級のステーキなどをあげても意味がありません。チョウが、その子どもであるイモ虫に、葉っぱではなく、大人の食べる花のミツを吸えと無理強いをしたら、チョウの子どもであるイモ虫は死んでしまいます。人間の場合も、それぞれの時期に適した食べ物も違うと考えなければいけません。まずは母乳を飲み、母乳だけでは足りなくなってきたら、離乳食を食べるとするのが、乳児期の健全な食生活です。

次に幼児期。この時期からほとんど大人と同じものを食べてもかまいません。しかし、まだ胃が小さいので一度に多くの量を食べられません。そのため本来必要な量が、一日3回の食事ではとれません。そこで大事になってくるのが、おかし＝「間食」です。一日に必要な食事を、一日3回の食事＋間食によって、必要量をまかなえるようにしてください。さらに子どもの運動量と照らしあわせて、食事を調節する必要があるのもこの時期からになります。

2. 成長期の「食生活」の大切さ

そして児童期から青年期というのは、「成長期」と呼ばれる心身ともに大きく成長する段階です。特に食育においても、大切な食生活の時期と呼ばれています。なぜなら、この時期の食生活が、その後の人生における「食の自立」に大きな影響を及ぼしてくるからです。

成長段階に必要な食とは、栄養面のことだけではなく、味覚形成・食習慣の体得・伝統に触れるなどの多くの「食経験」をすることが

大切とされています。その経験が、大人になってからの食生活にも強く影響し、自分が親になってからもさまざまな影響を及ぼすからです。

3. 三つの『コショク』

現代の食育では、「コショク」ということばがよく取り上げられます。この「コショク」には、3つの漢字が当てられます。

1つめは、「個食」。

家族といっしょであってもそれぞれが別のものを食べている、またはそれぞれの部屋で食べることを。

2つめは、「孤食」。

一人で食事をする、特に子どものみで食事をすること。

3つめは、「固食」。

同じものばかりを食べ続けること。

さびしさの漂うこれらの3つの「コショク」ですが、現代の成長期にある子どもたちには多いといわれています。というのも、「いつでも、どこでも食べ物を簡単に取ることができる」食生活環境＝レトルト食品、コンビニ・ファミレスの普及により、3つの「コショク」になりやすい環境が出来上がっているからです。その結果、食生活を営む基礎的な知識や技能が低下し、その後の成長に影響を及ぼしたり、食に関する知識を知らないといった現象が顕著におこっています。

従来、教育の世界では「知育・徳育・体育」が基本とされていますが、今後『食育』の重要性は、法律にもされたことから、より増していくでしょう。「道徳」が公教育で、検定科目にするべきか問われたように、『食学』も検定科目へと進むような動きが、将来でてくるかもしれません。

雑感

「落し蓋」といわれて、「豚肉を落とした」なんて笑い話があるぐらい、食に関する知識が失われていっています。「冬瓜は、いつの野菜ですか。」と貴塾の生徒さんに尋ねてみてはいかがでしょう。「冬」と答えられたら、その生徒さんの食に関する知識はアヤシイです。学力試験に直結する知識の習得も大切ですが、一般常識とよばれる知識も非常に大切な知識です。教室の入り口に、豆知識として「食育」するとおもしろいかもしれません。